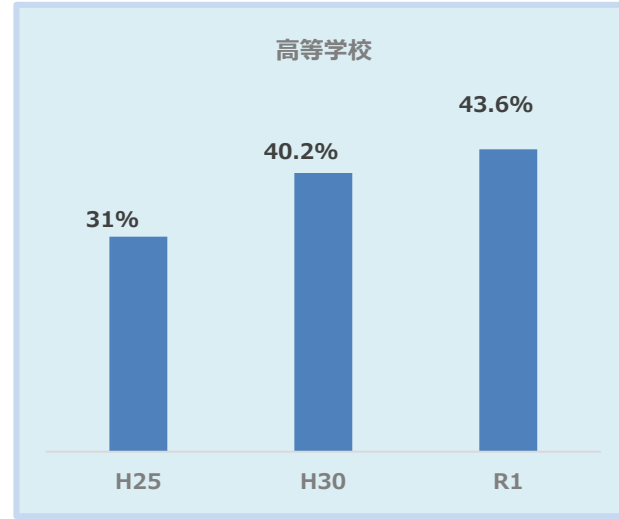
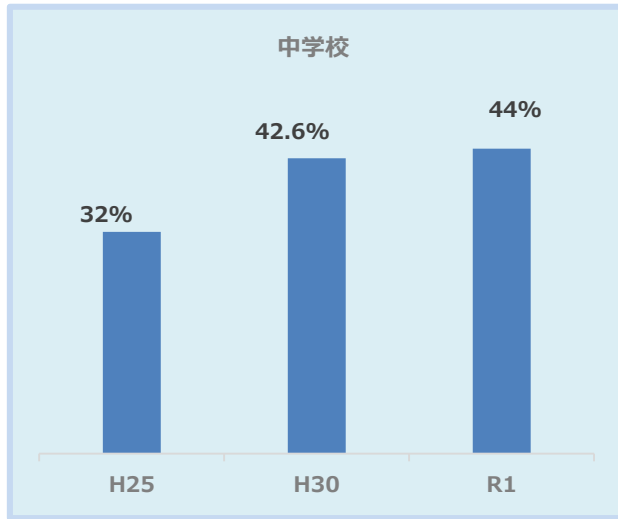


目標（7）グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

各指標の状況について

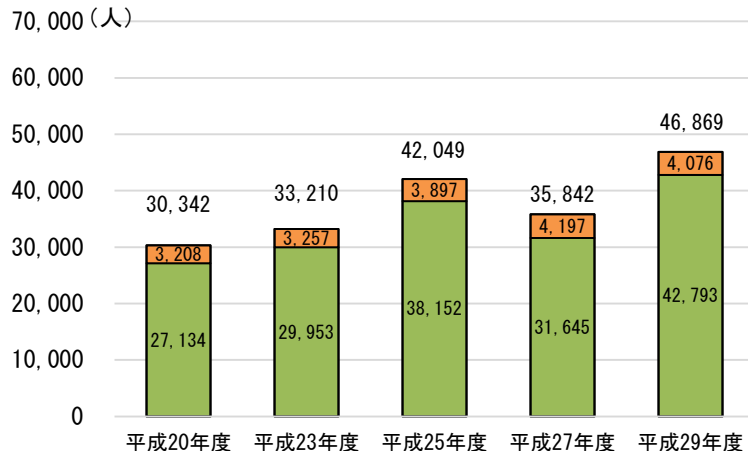
測定指標：英語力について、中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFRのA2レベル相当以上を達成した中高生の割合を5割以上にする



生徒の英語力については、中学生、高校生共に、目標値(50%)には達していないものの、経年で着実に改善が進んでいる。

文部科学省「英語教育実施状況調査」

測定指標：日本人高校生の海外留学生数を6万人にする



高等学校段階における海外留学・研修旅行者数は、目標値には達していないものの、平成29年度に46,869人となり、過去最高を記録した。研修旅行は27年度の3.2万人から、1.1万人増加しており、比較的短期の国際交流の増加が留学生数全体の増加につながっている。
※オレンジが長期留学（3か月以上）、緑が短期留学（3か月未満）

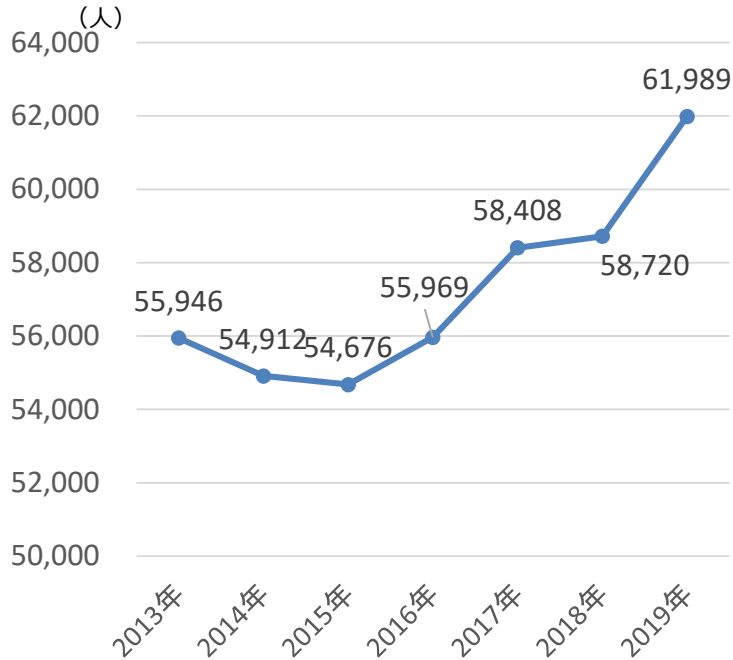
文部科学省「高等学校等国際交流状況等調査」

目標（7）グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

各指標の状況について

測定指標：グローバルに活躍する人材の育成につながる短期留学生を増加させながら、大学等の日本人海外留学生数12万人を引き続き目指す



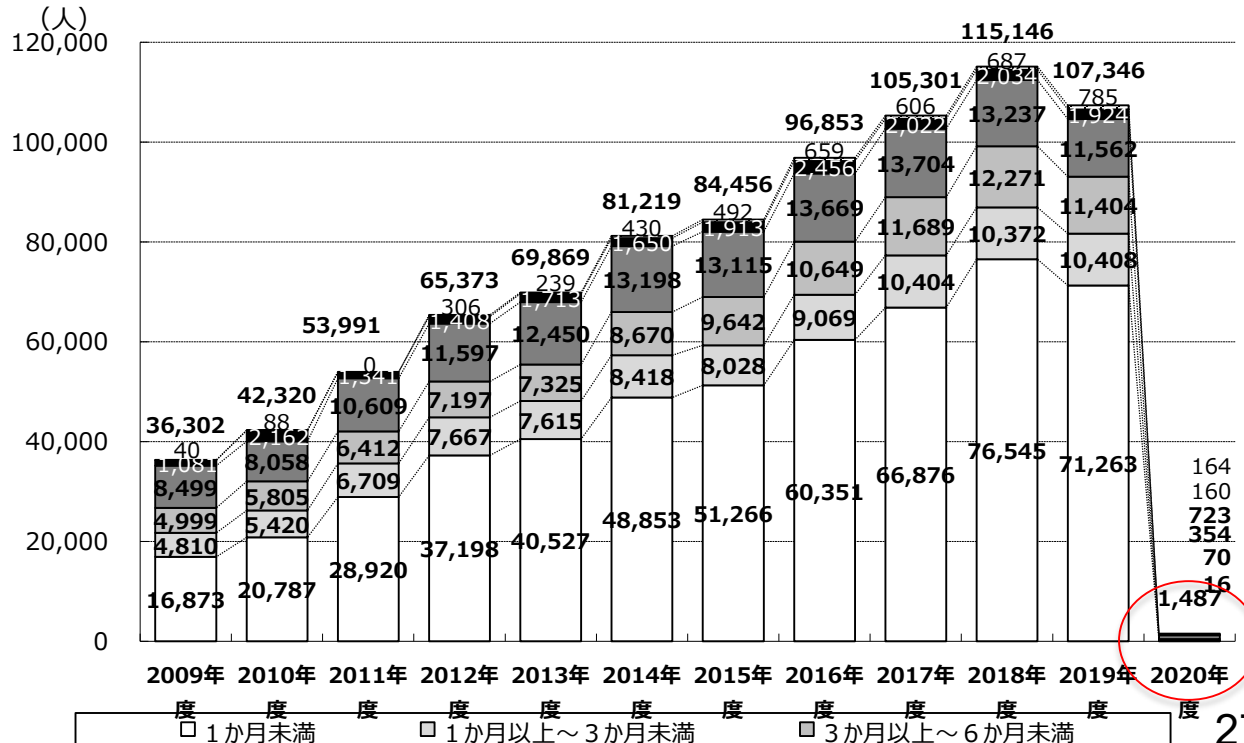
・短期留学生を含む、大学等が把握している留学者数について、平成30年度には概ね12万人に近い数字となったが、コロナによって甚大な影響を受け、令和2年度には留学者数が激減した。一方で、学位取得目的とする留学者数のデータについては、目標の達成には至っていないものの、近年増加傾向にある。

独立行政法人日本学生支援機構「協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」
 ※対象は、日本国内の高等教育機関に在籍する学生等で、日本国内の大学等と諸外国の大学等との学生交流に関する協定等に基づき、教育又は研究を目的として、海外の大学等で留学を開始した者及び、在籍学校において把握している限りにおいて、協定に基づかない留学をした者。短期の交換留学等も含む。

OECD統計等：OECD「Education at a Glance」、ユネスコ統計局、IIE「Open Doors」、中国教育部、台湾教育部

JASSO調査：外国人留学生在籍状況調査（(独)日本学生支援機構）

※OECD及びユネスコ統計局のデータは、2012年統計までは、外国人学生（受入れ国の国籍を持たない学生）が対象でしたが、2013年統計より、高等教育機関に在籍する外国人留学生（勉学を目的として前居住国・出身国から他の国に移り住んだ学生）が対象です。

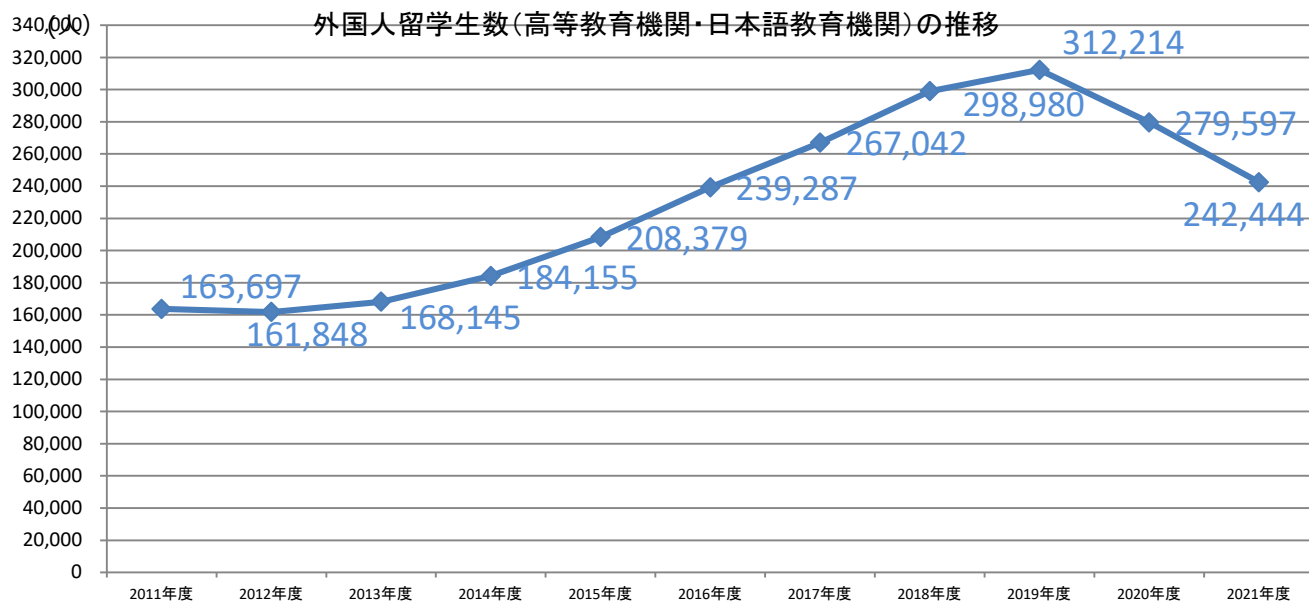


目標（7）グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

各指標の状況について

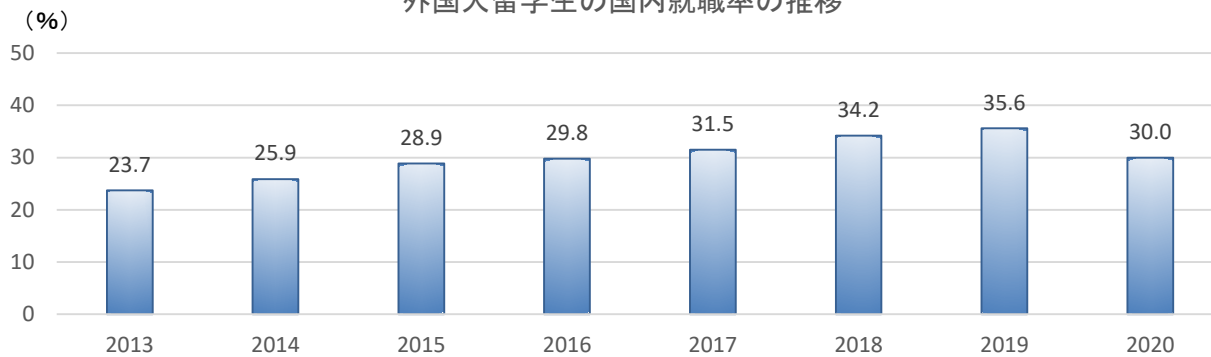
測定指標：外国人留学生数30万人を引き続き目指していくとともに、外国人留学生の日本国内での就職率を5割とする



独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

・外国人留学生数については、令和元年5月1日時点で、約31万人となり、目標を達成した。就職率については、令和元年度までに少しずつ増加しているものの、目標の5割には達していない状況になっている。いずれの数値も新型コロナウイルス感染症の影響により最新値は減少した。

外国人留学生の国内就職率の推移



(年度)

独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査」

目標（7）グローバルに活躍する人材の育成

伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材を育成する。

各施策の進捗について

● 伝統や文化等に関する教育の推進【一部再掲】

・令和2年度から順次全面実施されている新学習指導要領では、我が国の伝統や文化に関する内容を充実しており、その趣旨の周知を図った。
・劇場・音楽堂や学校等、様々な場所で子供が伝統文化や実演芸術等の多様な文化芸術の鑑賞・体験等を楽しむための支援を通じ、子供たちが一流の芸術、地域の伝統や文化に触れる機会を提供する取組を支援した。また、H30年に芸術教育の所掌を文化庁に移管し、学校教育における芸術教育とあわせて、より一体的な芸術教育の推進に取り組んだ。

● 英語をはじめとした外国語教育の強化

・令和2年度から順次全面実施されている新学習指導要領では、英語をはじめとする外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成に関する内容を充実させており、その趣旨の周知を図った。また、教材の整備、指導資料の充実、教員研修、自治体への情報提供等を行っている。さらに、毎年度各都道府県等に「英語教育改善プラン」の策定を要請するとともに、英語教育実施状況調査等で自治体の取組のフォローアップを行っており、今後も引き続き上記の取組を行う。
・大学入学者選抜においては、既に大学入学者選抜実施要項において、資格・検定試験等の活用を図ることが望ましいと記載し、活用を促しているところ、今後については「目標（4）高大接続改革の着実な推進」を参照。

● 国際化に向けた先進的な取組を行う高等学校・高等専門学校・大学等への支援

・グローバル人材を育成するためのプログラムの内容と運営の経験知、国内外のネットワーク等、有形無形のリソースが研究開発・実践した高等学校等の中に形成された。
・平成30年度に設立した「文部科学省IB教育推進コンソーシアム」を通じ、学校や自治体等に向けて国際バカロレア(IB)の導入支援、情報提供を進めることにより、IB認定校等や大学におけるIB活用が着実に増加している。
・高等専門学校についてはモンゴル・タイ・ベトナムへの展開を支援し開校させてきたところ。大学等については、スーパーグローバル大学創成支援事業により大学におけるトップレベルの国際化の取組を支援し、成果を横展開してきた。

● 日本人生徒・学生の海外留学支援

・「トビタテ留学JAPAN!キャンペーン」も踏まえ、官民で連携した留学支援や、海外留学に関する情報発信等の留学への機運を醸成する取組を進めてきたところ。今回の課題等を踏まえつつ、新型コロナウイルスの影響を踏まえた「新たな日常」における高等教育のグローバル戦略を構築し、コロナ禍で激減した日本人留学生数を回復させた上で、更なる量的拡大を目指し取組を進めていく。

● 外国人留学生の受入れ環境の整備

・「留学生30万人計画」に基づき、奨学金支援や留学生の就職促進等の取組を進めてきたところ。今後は、新型コロナウイルスの影響を踏まえた「新たな日常」における高等教育のグローバル戦略を構築し、外国人留学生数のコロナ禍前の量的水準への回復を目指しつつ、量から質への転換を目指す。

【後掲の施策群】

- 海外で学ぶ子供や帰国児童生徒、外国人児童生徒等への教育推進
- 地域における外国人に対する日本語教育の推進

進捗の総括

中学生・高校生の英語力については、目標には達していないものの改善は進んでいる。高校生・大学生の海外留学については増加傾向にあり、一部目標を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響により海外留学生数が激減した。また、外国人留学生数については目標を達成したが、同じくコロナの影響により留学生数が減少した。目標に向けた施策として、英語をはじめとした外国語教育の強化に向けた学習指導要領の着実な実施及び自治体の取組のフォローアップ、先進的な取組を行う高校・高専・大学等への支援、「トビタテ留学JAPAN!キャンペーン」、外国人留学生受入れのための奨学金支援や就職促進等の取組等を推進した。

課題とその対応

中学生・高校生の英語力の向上に向けては、学習指導要領の着実な実施のための教材整備・教員研修等、各都道府県等での「英語教育改善プラン」の策定要請、自治体の取組のフォローアップ等を引き続き実施する。
国際化に向けた先進的な取組を引き続き支援するとともに、高等教育のグローバル戦略を構築し、それに基づき、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した日本人留学生数の回復及び量的拡大、外国人留学生数の量的水準の回復及び量から質への転換を目指す。

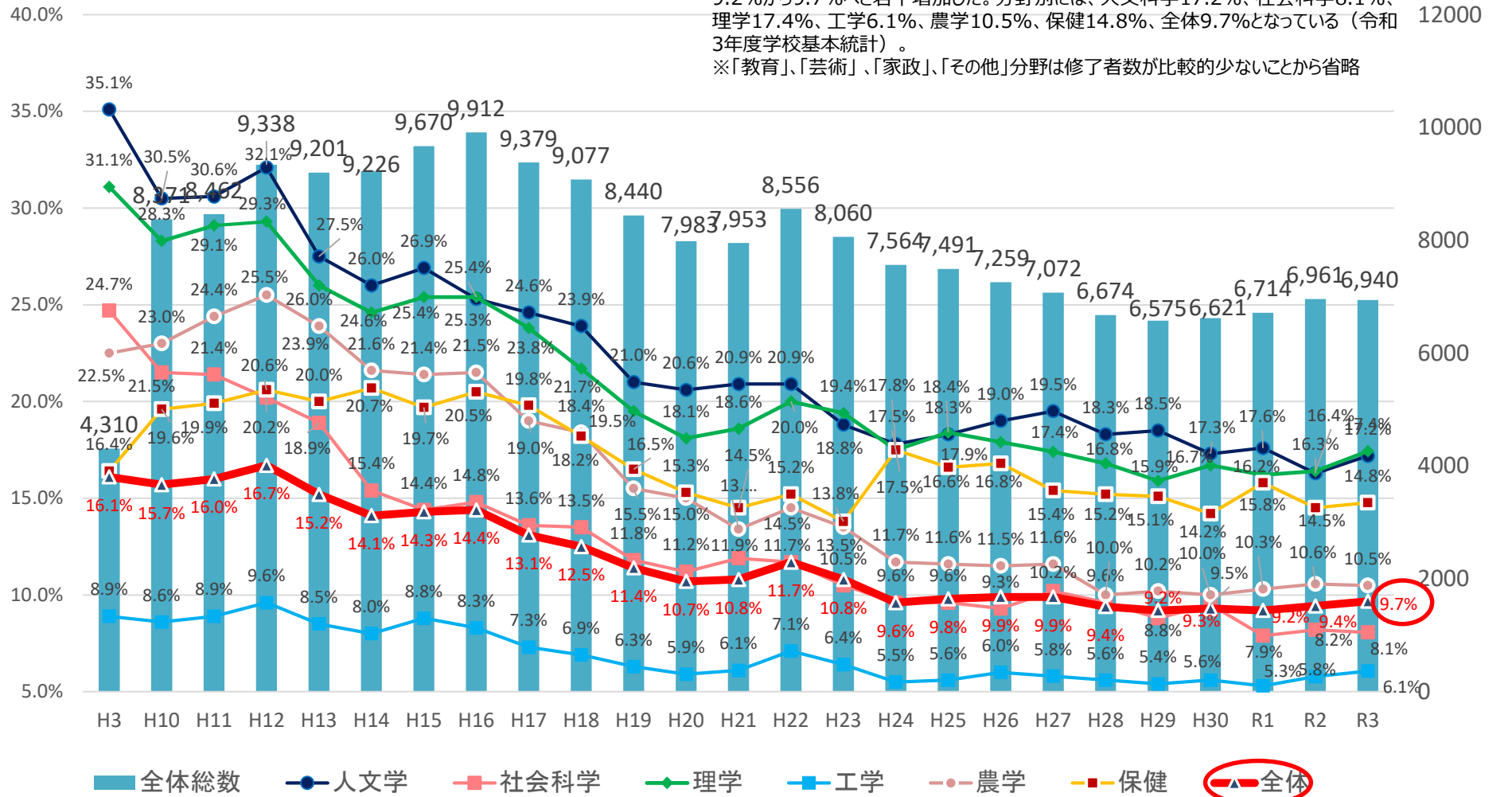
目標（８）大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成

高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出し、その知から新たな価値を生み出す創造性を有して、既存の様々な枠を超えて活躍できる、イノベーションを牽引する人材を育成する。

各指標の状況について

測定指標：修士課程修了者の博士課程への進学率の増加

・修士課程修了者の博士課程等への進学率は、中長期的に各分野を通じて減少傾向。
 ・修士課程修了者の博士課程等への進学率は、平成29年度から令和3年度にかけて、9.2%から9.7%へと若干増加した。分野別には、人文科学17.2%、社会科学8.1%、理学17.4%、工学6.1%、農学10.5%、保健14.8%、全体9.7%となっている（令和3年度学校基本統計）。
 ※「教育」、「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的小さいことから省略



出典：学校基本調査